

## 競 技 注 意 事 項

### 1 競技規則について

本大会は、2021年度日本陸上競技連盟規則によって行う。

### 2 招集について

- (1) 競技者招集所は、スタンド下雨天練習場に設ける。
- (2) 招集完了時刻は、下記の通りとする。

	招集開始	招集完了
トラック競技	40分前	20分前
フィールド競技	90分前	60分前

- (3) 招集完了時刻に遅れた者は当該競技種目を棄権したものとみなす。

#### (4) 招集の手順

- (ア) 競技者は招集所に掲示した用紙に、本人又は代理人がチェックする。
- (イ) 最終点呼は現地で行う。その際にアスリートビブスの確認を受ける。
- (ウ) 代理人による最終点呼は原則として認めない。但し、2種目を同時に兼ねて出場する者は、あらかじめ、競技者係に申し出ること。
- (エ) リレー競技に出場するチームは、競技開始の1時間前までに招集所にオーダー用紙を提出すること。なお、オーダー用紙提出は招集を受けたことにはならないので、改めて、20分前までに招集を受けること。
- (オ) 棄権するものは、招集所に用意している棄権届に必要事項を記入し、招集開始時刻までに、招集所に提出すること。

### 3 競技用靴について

- (1) スパイクのピンの長さは9mm以下とし、走高跳及びやり投げの場合は12mm以下とする。本数は11本以内とする。
- (2) フィールド競技用シューズのTR5.5については適応除外（国内ルール）とする。長距離種目はWA規則143条TR5に則り、測定したシューズで25mm以上のシューズを使用して参加したものは失格とする。なお、シューズの厚底について、招集所にて測定する。

### 4 アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスはユニフォームの胸部と背部につける。但し、走高跳・棒高跳・走幅跳・三段跳に出場する選手は、胸部又は背部だけでもよい。
- (2) トラック競技の出場者は、写真判定用の腰ナンバーカードを招集所で受け取り、パンツの右側後方につける。腰ナンバーカードは競技終了後、速やかにゴール地点の補助員に返却すること。

### 5 競技の抽選ならびに番組編成について

- (1) トラック競技の決勝については、番組編成係において公平に組合せ、レーン順を決め、招集掲示板に掲示する。
- (2) トラック競技においてプラス出場者を決める時、その最下位で同タイム者が出た場合は下記の方法で決める。
  - ・100m、200m、400m、800m、100mYH、100mH、110m JH、400mH  
4×100mR、4×400mR  
同タイム者については、写真判定を拡大し、着差ありの判定をする。  
それでも判定できないときは、本人又は代理人によって抽選する。
  - ・1500m  
同タイム者は次のラウンドに進める。
- (3) 写真判定装置不作動の場合は、その種目の当該ラウンド全組を手動計時に変えて着順優先で決定する。
- (4) リレーに出場するチームは、同一のユニフォームで参加しなければならない。

6 競技用具について

棒高跳用のポール及びやり・円盤・ハンマーで持参した物については、検査の上使用を認める。ポール・円盤・ハンマーについては現地で検定を行う。やりについては用器具倉庫前にて競技開始1時間前に検定を行う。

7 走高跳、棒高跳のバーの上げ方

男子 走高跳	1m50 (練習) 1m75 (練習)	1m50-1m55-1m60-1m65-1m70-1m75-1m78 (以降は3cm刻み)
女子 走高跳	1m15 (練習) 1m40 (練習)	1m20-1m25-1m30-1m35-1m40-1m45-1m48 (以降は3cm刻み)
男子 棒高跳	2m00 (練習) 3m00 (練習)	2m20-2m40-2m60-2m80-3m00-3m20-3m40-3m60 (以降は10cm刻み)
女子 棒高跳	2m20 (練習)	2m40-2m60 (以降は10cm刻み)

- ・順位決定のためのバーの上げ下げは走高跳では2cm、棒高跳では5cm
- ・天候の状況次第では、バーの上げ下げの変更もある。

8 フィールド種目の計測ライン及び計測方法・決勝試技について

- (1) フィールド種目の計測ラインについては、特に設けない。
- (2) 投擲種目については、1cmきざみで計測する。
- (3) 投擲・跳躍種目での決勝ラウンド試技順序は、記録の低い者から実施する。
- (4) 男子B砲丸投は5kgとする。

9 その他

- (1) 本大会は事前に配布した資料にもとづき、新型コロナウイルス対策を行うこと。
- (2) 開会式・閉会式は実施しない。
- (3) 各種目の表彰式は実施する。表彰を受ける生徒の待機場所は雨天練習場とする。
- (4) 雨天練習場での練習は禁止とする。
- (5) 生徒が競技場に入出入りする場合は100mスタート付近と100mゴール付近の2カ所のみとする。(正面玄関は通行できない)
- (6) 応援については密を避けるよう十分な距離をとり、拍手のみとする。また、長距離種目でのラップを伝えるなどは禁止する。フィールド種目の応援についても選手のかけ声に合わせて応援者が声を出すことは禁止する。
- (7) 男子110JHは、AB共にジュニアハードルの高さとする。
- (8) 女子B100mYHは、ユースハードルの高さとする。
- (9) 7項については気象状況により変更することもある。
- (10) 投てき競技に出場する選手は、役員の指示に従い、事故防止に留意すること。
- (11) 予選がなくなった場合には、決勝の時間に決勝のレースを行う。
- (12) 大会期間中競技場で生じた傷害や疾病は医務室で応急処置を行う。
- (13) 高体連の規定により、引率教師のない学校の出場を認めない。
- (14) 県大会出場資格
  - ・A種目 上位4名
  - ・B種目 上位2名
  - ・リレー種目・共通種目 上位6名
  - ・競歩 上位4名